

[001]アジア総合政策センター紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13307>

出版情報：九州大学アジア総合政策センター紀要. 1, 2006-06-30. 九州大学アジア総合政策センター
バージョン：
権利関係：

年報 (2005年度)

Kyushu University Asia Center

1. 九州大学アジア総合政策センターについて
2. 2005年の活動項目とメールマガジン（メルマガ）の発行
3. 九州大学アジア塾 実施報告
4. 九州大学アジア理解講座 実施報告
5. Soaked in Asia (SIA = サイア) 報告
— アジアの心の情報を発信する
6. アジア関連研究室紹介 (2005年7月～2006年3月取材分)
7. 九大アジア叢書発行
8. 2005年度アジア総合政策センター交流支援事業
9. 2005年度アジア総合政策センター政策提言支援事業

1. 九州大学アジア総合政策センターについて

ここでは、2005年7月に設立されたアジア総合政策センターの概要と、設立の目的、主要業務（活動のイメージも含む）、及び構成員（2006年3月末現在）を示す。（詳細はホームページ：<http://asia.kyushu-u.ac.jp/top/>）

設立理念

アジアが世界を先導し、アジアが時代を動かす現代において、九州大学が指向するアジア重視戦略に基づき、九州大学がすでに有する知的・人的資源を最大限に活用しつつ、九州大学内と学外＝日本国およびアジア諸国を中心とする諸外国の政府、自治体、企業、市民社会と連結（リエゾン）し、「九州大学へ行けばアジアが分かる」と言えるような社会的にも大きな影響力の発揮できるセンターとして存在したい。

これまでのアジア総合研究センター（KUARO）を発展改組し、これからの世紀を担うと目されるアジア、特にそのパワーの源とも言える大衆文化（ポップカルチャー）にも十分に着目しつつ、経済的な発展と国土の開発が進む現代アジアを総体的に捉え、政府、地元自治体、企業、市民社会に対して有益かつ有効な政策提言の行える調査・研究の実施できる、躍進するアジアに関する新たなシンクタンク（知的拠点）を目指す。

九州大学において進行するアジア関連研究のデータベースの整備と更なる充実に努めると同時に、率先してタスクフォースを立ち上げることで、アジアに関する学際的な研究が九州大学をベースとして今以上に活発に行われるべく牽引車の役割を果たしたい。

日本国内のアジア関連諸機関との連携に加え、アジア及び欧米の大学におけるアジア研究センター等とも学術的ネットワークを形成し、現代アジアが直面する諸問題に関し有益・有効な解決策や政策提言が行える研究を行ないたい。

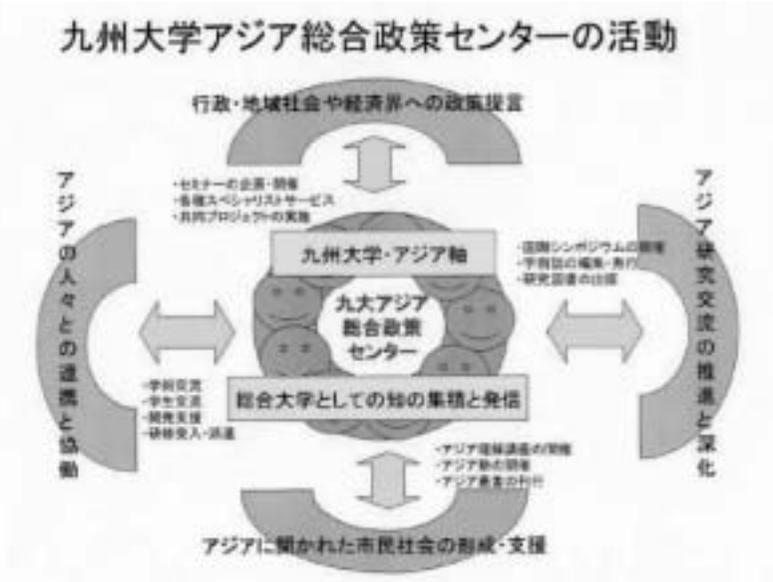
設立の目的

センターは、現代アジアを相対的に捉え、アジアに関する知的拠点として、広く社会に向けて、有益かつ有効な政策提言を行なうための調査・研究を行なうことを目的とする。

具体的な業務

1. 政府、地元自治体、企業、市民社会等に対して有益かつ有効な政策提言を行なうための調査・研究
2. 現代アジアの社会・文化的な変動の状況についての調査・研究
3. アジアにおける都市開発や農村開発とそれに伴う環境保全、精神衛生等の諸問題についての調査及び考察
4. アジアに関する調査・研究に立脚しつつ、政策提言を行なうに当たっての制度的、理論的・実証的な研究
5. 国内のアジア関連諸機関との連携、また、アジア及び欧米の大学におけるアジア研究センターとの学術的ネットワークの形成
6. 現代アジアに関する研究成果を反映した実用的な教育プログラムの実施
7. 現代アジアに関する公開セミナーや公開講座等の実施
8. 現代アジアに関する有益な情報や調査・研究成果の情報の収集と発信

センターの活動のイメージ図



構成員 (2006年3月31日現在)

委員長

- ・柳原 正治
(理事・副学長)

センター長

- ・岡崎 智己
(留学生センター・教授)

アジア現代文化研究部門

専任教員

特任教授

- ・高樹のぶ子

教授

- ・ピニングトン ノエル ジョン

複担教員

- ・有馬 學
(比較社会文化研究院・教授)
- ・小川 全夫
(人間環境学研究院・教授)
- ・清水 展
(比較社会文化研究院・教授)

協力教員

- ・森田 昌嗣
(芸術工学研究院・教授)

アジア社会開発研究部門

専任教員

助教授

- ・小川 玲子

複担教員

- ・鈴木 宣弘
(農学研究院・教授)
- ・原 寿郎
(医学研究院・教授)
- ・出口 敦
(人間環境学研究院・教授)

協力教員

- ・緒方 一夫
(熱帯農学研究センター・教授)
- ・南 博文
(人間環境学研究院・教授)
- ・小松 太郎
(言語文化研究院・助教授)
- ・稲葉美由紀
(言語文化研究院・助教授)
- ・大谷 順子
(言語文化研究院・助教授)
- ・李 一清
(言語文化研究院・助教授)

アジア社会科学研究部門

専任教員

教授

・国吉 澄夫

複担教員

・永池 克明
(経済学研究院・教授)

協力教員

・韓 相熙
(法学研究院・助教授)
・フェニック マーク
(法学研究院・助教授)
・星野 裕志
(経済学研究院・教授)
・安達 明久
(産学連携センター・特任教授)

事務スタッフ

氏 名	所 属
松川 耕三	国際交流推進室
西原 暁子	国際交流推進室
高原 芳枝	国際交流推進室
松崎 隆泰	国際交流推進室
佐藤 伸一郎	国際交流推進室
瀧山 直子	アジア総合政策センター事務室
玉好 さやか	アジア総合政策センター事務室

2. 2005年の活動項目とメールマガジン（メルマガ）の発行

2-1 アジア総合政策センターの対外的イベント項目

2005年7月1日設立から2006年3月まで、アジア総合政策センターが主催、ないしは後援を行なったアジアに関する市民向け講座、セミナー等主要な対外イベント項目を挙げる。

日 時	活 動 内 容	備 考
7月1日	九州大学アジア総合政策センター設立	
8月8日 ～ 8月10日	九州大学21世紀 COE プログラム（人文科学） 「東アジアと日本：交流と変容」東アジア史研 究コンソーシアム発足ワークショップ	主催：九州大学21世紀 COE プログラム（人 文科学）「東アジアと日本：交流と変容」 後援：アジア総合政策センター
9月3日 ～ 9月4日	第16回福岡国際母子総合研究シンポジウム	主催：九州大学母子総合研究リサーチコア 後援：アジア総合政策センター
9月9日	アジアの健康を考える会 第1回市民公開講座 「国境を越えた保健医療協力」	主催：九州大学病院アジア国際医療連携室 後援：アジア総合政策センター
10月30日	九州大学韓国研究センター 国際シンポジウム (第14回日韓海峡沿岸県市道知事交流会議開催 記念)	主催：九州大学韓国研究センター 後援：アジア総合政策センター
11月8日	第1回九州大学アジア塾「変貌する中国ビジ ネス環境と経営戦略のあり方」	主催：アジア総合政策センター 場所：福岡国際ホール
12月2日	シンポジウム「国際協力の将来と若者への期待」	主催：九州大学言語文化研究院 後援：アジア総合政策センター
12月9日 ～ 12月11日	Asia Digital Art and Design International Forum in Fukuoka	主催：アジアデジタルアートアンドデザイ ン学会 後援：アジア総合政策センター
12月16日	九州大学アジア理解講座「アジアにおけるメ ディア文化の交流 ― 中国の若者が見た日本・ 韓国のテレビドラマをめぐって」	主催：アジア総合政策センター 場所：アクロス福岡
1月18日 ～ 1月20日	第1回環黄海建築環境エネルギー国際交流会議	主催：九州地域環境・リサイクル産業交流 プラザほか 後援：アジア総合政策センター
3月10日	第1回 SIA-DAY 「高樹のぶ子と浸るフィリ ピン！」	主催：アジア総合政策センター 場所：アクロス福岡
3月15日	第2回九州大学アジア塾「NGO、大学そして 自治体のコラボレーション ― 三位一体の国 際協力 ―」	主催：アジア総合政策センター 場所：アクロス福岡
3月24日	報告会「アジア太平洋におけるアクティブ・ エイジング」	主催：九州大学東アジアセンター・オン・ エイジング 後援：アジア総合政策センター

2 - 2 メールマガジン【アジアセンター通信】

アジア総合政策センターでは、「アジアセンター通信」として、2005年7月 - 2006年3月、以下の「お知らせ」内容を含むメールマガジン（メルマガ）を発行してきた。詳しくはホームページ：<http://asia.kyushu-u.ac.jp/mail/>

Vol.	タ イ ト ル	発行日
05 Vol.10	「九州大学アジア総合政策センター」設立のお知らせ	(05.07.15)
05 Vol.12	平成17年度アジア総合政策センター交流支援事業募集（学内向け）	(05.07.21)
05 Vol.16	お知らせ「アジアの健康を考える会 第1回市民公開講座：国境を越えた保健医療協力」開催	(05.09.02)
05 Vol.17	お知らせ 国際シンポジウム「高齢化とアジアを見すえ、福岡の将来を考える」開催	(05.09.05)
05 Vol.18	お知らせ「EUROGRAPHICS 2005にて九大作品がグランプリ受賞」	(05.09.20)
05 Vol.20	お知らせ「作家の高樹のぶ子氏 本センター特任教授に就任」	(05.10.05)
05 Vol.21	平成17年度アジア総合政策センター交流支援事業募集（第2回） （学内向け）	(05.10.06)
05 Vol.22	アジア総合政策センターホームページ リニューアル！	(05.10.13)
05 Vol.24	九州大学韓国研究センター・国際シンポジウム開催	(05.10.20)
05 Vol.25	「第1回九州大学アジア塾」開催	(05.10.25)
05 Vol.26	文化庁第3回国際文化フォーラムにて、高樹のぶ子特任教授が講演	(05.10.27)
05 Vol.28	ホームページ更新情報（「政策提言」について）	(05.11.07)
05 Vol.30	シンポジウム「国際協力の将来と若者への期待」開催	(05.11.29)
05 Vol.32	「九州大学アジア理解講座」開催	(05.12.02)
05 Vol.33	ホームページ更新情報	(05.12.13)
05 Vol.35	平成17年度アジア総合政策センター交流支援事業募集（第3回） （学内向け）	(06.01.13)
05 Vol.37	高樹のぶ子特任教授の活動「SIA（サイア）」について（ホームページの更新）	(06.01.19)
05 Vol.38	九州大学アジア理解講座 開催報告（ホームページの更新）	(06.01.30)
05 Vol.41	第1回 SIA-DAY「高樹のぶ子と浸るフィリピン！」開催	(06.02.23)
05 Vol.43	「第2回九州大学アジア塾」開催	(06.03.06)
05 Vol.44	報告会「アジア太平洋におけるアクティブ・エイジング」開催	(06.03.09)

3. 九州大学アジア塾 実施報告

アジア総合政策センターでは、アジアとの文化・芸術交流、国際開発協力、また貿易やビジネス等々、様々な分野でアジアと出会い、交流していく際に必要となる、実際の、実用的な知識やノウハウを提供することを目的として九州大学アジア塾を開催している。平成17年度は、以下の二回を開催した。

第1回：「変貌する中国ビジネス環境と経営戦略のあり方」

日時：2005年11月8日（火） 14：00 - 17：00
会場：福岡国際ホール 志賀の間（西日本新聞会館16階）

プログラム

（挨拶）

九州大学アジア総合政策センター長・教授 岡崎智己

（セミナー1）

「変化の中の中国ビジネス — リスクとチャンス」

九州大学アジア総合政策センター教授 国吉澄夫

（セミナー2）

「経営戦略から見た中国ビジネスの解明」

九州大学大学院経済学研究院教授 永池克明

（質疑応答）

概要

長年にわたり日本企業のアジア・中国事業の現場で指揮を取った二人の方を講師に迎え、WTOに加盟して4年が経過した中国におけるビジネス環境の変化と、現在の中国における経営戦略のあり方について、お話を伺った。

（国吉教授の発言要旨）

中国ビジネスは2005年4月の「反日デモ」を経験して、大きな曲がり角に来ている。企業は事業の拡大のみではなく、現地社会への貢献や人材の現地化を図りながら進出先との良好な関係を構築するバランスが求められている。その際、大事なことは、政府の方針、市場動向、現地企業の動向、人材流動に関する事等、十分な情報武装により、危機を機会に転換するリスク管理のあり方である。

（永池教授の発言提言）

中国が「工場管理」の場から、「企業経営」の場に大きく変わろうとしている。中国に進出した日本企業は成功している企業もあれば、失敗している企業もある。失敗する企業には過去の成功体験をそのまま持ち込むことによる失敗も見受けられる。ビジネスはサイエンスであり、科学的に裏打ちされた明確な戦略を持つことが肝要である。今の九州の地元企業は地場の市場頼みではやがて限界が来る。アジア・中国へのビジネスチャンスはこれからさらに増えるので、みずからの優位性を生かしたビジネスモデルを確立して進出することが大事である。

参加人数：77名

第2回：「NGO、大学そして自治体のコラボレーション ― 三位一体の国際協力 ―」

日時：2006年3月15日（水） 18：00 - 20：30

会場：アクロス福岡2階 セミナー室2（文化観光情報ひろば内）

プログラム

（挨拶）九州大学アジア総合政策センター教授 ノエル・ピニングトン

（司会）九州大学言語文化研究院長 山下 邦明

（報告とパネル・ディスカッション）

パネリスト；

アジア砒素ネットワーク事務局長 川原 一之

九州大学芸術工学研究院助教授 谷 正和

九州大学法学研究院教授 藪野 祐三

概要

国際協力の分野での大学とNGOの間、また自治体とNGOとの間の二者連携（コラボレーション）は近年盛んになってきているが、これらの三者が一体となった協働が可能なのかを、パネリストとの双方向の討論を通して、探った。

（藪野教授の発言要旨）

「平和を繋ぐ ― Bridge the World ―」をテーマに、地雷撤去という具体的な活動を通して見えてきた「技術協力」「資金サポート」「市民的サポート」そして「行政協力」を繋ぐことの重要性、さらには、民間企業が参加できる国際協力の方法を探るべきである。

（谷助教授の発言要旨）

自らの専門分野である文化人類学の調査過程で知ることになったバングラデシュでの砒素汚染の実態についての啓発活動、患者サポートそして代替水源の確保に関わってきた。それを通して、日本人が考える「普通」とバングラデシュのそれは違うことを理解すること、現地住民とのコラボレーションが重要である。

（川原氏の発言要旨）

新聞記者時代に取材した宮崎の土呂久砒毒事件がきっかけとなって、その記録を書き続けると同時に中毒患者への支援運動を展開してきた。砒毒の問題が日本だけでなくアジア各地にもあることを知り、その解決のためにアジア砒素ネットワークを設立し、活動を続けている。「互いに学びあい協力すること」、「現地に適応する技術」が重要であり、さらに「苦しみを共にして歩むことでのみ喜びを共有できる」ことを知ってほしい。

参加人数：57名

詳細 <http://asia.kyushu-u.ac.jp/home/ajiajuku/main.html>

4. 九州大学アジア理解講座 実施報告

アジア総合政策センターでは、ダイナミックに変貌するアジアに対する理解を深める目的で市民向けの講座を定期的で開催している。平成17年度は以下の講座を開催した。

アジアにおけるメディア文化の交流 — 中国の若者が見た日本・韓国のテレビドラマをめぐって

日時：2006年12月16日（金）18：00～20：00（17：30開場）

会場：アクロス福岡 608会議室

プログラム

(挨拶) 九州大学アジア総合政策センター長・教授 岡崎 智己

(講演) 「アジアにおけるメディア文化の交流：

中国の若者が見た日本および韓国のテレビドラマをめぐって」

北京外国語大学北京日本学研究中心専任講師 吳 咏梅

(パネルディスカッション)

パネリスト：北京外国語大学北京日本学研究中心専任講師 吳 咏梅

九州大学大学院比較社会文化研究院教授（文化人類学）清水 展

九州大学アジア総合政策センター教授（日本思想・日本文学）N. J. ピニングトン

司会：九州大学アジア総合政策センター長 岡崎智己

講師略歴

吳咏梅 (Wu Yongmei)：北京外国語大学 北京日本学研究中心専任講師

社会学・人類学的手法で日本研究に取り組む。最近ではアジアにおける日本大衆文化のプレゼンス、日本のテレビコマーシャルに見る日本の消費文化、ジェンダー像についての研究を行っている。現在、北京外国語大学北京日本学研究中心専任講師。これまで東京大学大学院総合文化研究科（2003年1月～5月）、および国際日本文化研究センター（2004年8月～2005年7月）に外国人研究員として在籍。著書に *The Care of the Elderly in Japan* (Routledge Curzon Press, 2004) 等がある。

概要

1980年代後半から2000年ごろまでは、日本のトレンドードラマが中国の若者層に好まれ、普及した。その代表的な作品としては「101回目のプロポーズ」や「ひとつ屋根の下」等が挙げられ中国では、「日本青春偶像劇」または「日劇」と呼ばれた。しかし、2002年以降は、韓流ブームにより「日劇」は「冬のソナタ」に代表される韓国ドラマに取って代わられた。中国では1990年代以降、急激な社会変動によって中間階級が形成され、それが若者のプチプル意識を醸成し、社会的にも大きな影響力を与える若者文化を興隆させた。こうした現代中国の時代の流れを作っている若者文化の現状を分析し、ドラマやポップカルチャーを通して中国人の日本人観が変わっていけば相互理解とより良い、友好関係が築けると報告した。

参加者数：46名

詳細 <http://asia.kyushu-u.ac.jp/home/ajiarikai/main.html>

5. Soaked in Asia (SIA = サイア) 報告 — アジアの心の情報を発信する

九州大学アジア総合政策センターでは芥川賞作家の高樹のぶ子を特任教授として迎え、アジアに対する従来のアカデミックなアプローチに加えて、芸術表現を通じてのアジアとの関わりを模索することとした。自ら表現者である高樹が、アジアの文学者との交流を求めて開始されたのが SIA である。

SIA とは何か

作家高樹のぶ子がアジアの文学作品を読み、作家と交流し、文字通り「アジアに浸る (soaked)」ことで感じた世界を様々な方法で発信するマルチイベント。アジアに生きる普通の人々が何を望み、何を愛し、憎しみ、何を守りたいと感じているのかを肌で実感できるものの一つに文学がある。文学作品には、知識ではなく感性の深い部分で感じる肌触りや、理屈を超えて実感できる世界がある。文学を芸術や娯楽としてだけでなく、「心の情報」と捉え、アジアの作家との文学を通じたキャッチボールを行い、その成果を様々な方法で発信をしていく試み。

(1) Visit SIA

アジアの文学作品の中で高樹のぶ子の感性に触れた 1 作家の 1 作品を選出し、半年に 1 カ国ずつ取り上げ、その作家や作品を生んだ環境を訪ねる。第 1 回目は、2006 年 1 月にフィリピンの作家グレゴリオ・C. ブリヤンテス氏の故郷であり、短編「アンドロメダ星座まで」の舞台となったターラック州のカミリンを同氏とともに訪問し、彼の心のうちにあるフィリピンの 60 年を語ってもらった。また、マニラの歴史的な遺産でもあるサンチャゴ要塞やリサル記念館、庶民の街であるキアボ、アヤラ博物館、アキノ元大統領の親族が所有するルイシータ農園、マニラの不法占拠地区、私立の名門アテネオ・デ・マニラ大学の学生寮の訪問をしたほか、国立フィリピン大学にて文学者たちとの意見交換を行った。

(2) 新潮 SIA

アジアの作品と Visit SIA から得た果実を創作として表現し、文芸誌にアジアの文学作品と高樹のぶ子作品の 2 作を同時発表する。フィリピン編の成果として『新潮』2006 年 4 月号にグレゴリオ・C. ブリヤンテス氏の短編小説「アンドロメダ星座まで」と高樹の書き下ろし作品「天の穴」が掲載された。

(3) SIA Day

アジアの作品と Visit SIA から得た成果を市民に向けて発信するイベント。第 1 回目の SIA Day は「高樹のぶ子と浸るフィリピン！」と題して 2006 年 3 月 10 日 (金) にアクロス福岡で開催された。全体を 3 部構成に分け、第 1 部「『アンドロメダ星座まで』をめぐって」では、ブリヤンテスの作品朗読と 2 人の作家の対談の様子が映像を交えて紹介された。第 2 部「フィリピンの社会と文学」では高樹のぶ子が感じたフィリピンの様子を綴ったエッセイがフォトエッセイ (写真とエッセイの朗読) という形で初公開され、休憩時間には熊本のパナナ農園から提供があったバナナの葉の上に盛り付けたフィリピンのお菓子とドリンクが振舞われた。「思いは天空を超えて」と題する第 3 部では、ブリヤンテスとその作品に出会って生まれた高樹のぶ子の書き下ろし短編小説「天の穴」の朗読が行われた。また、5 月 25 日 (木) に「学内 SIA — 小説家の見た、触れた、感じたフィリピン」と題して九州大学内でもイベントが行われた。学内 SIA の第 1 部では対談映像の上映とフォトエッセイの紹介及び高樹による作家トークが行われ、第 2 部では比較社会文化研究院の清水展教授とアジア総合政策センターの小川玲子助教授を迎えてフィリピンの文学と社会についてパネルディスカッションが行われた。

(4) TV SIA

Visit SIA や SIA Day を含めた SIA のプロセスを30分番組としてメディアで放映し、より多くの方々に SIA を紹介する。フィリピン編の様子は以下の番組にて紹介された。

2006年4月2日(日) RKB 「ムーブ2006」

2006年5月8日(月) TBS 「筑紫哲也 NEWS23 : マンデープラス」

詳細は <http://asia.kyushu-u.ac.jp/home/sia/main.html>

6. アジア関連研究室紹介 (2005年7月～2006年3月取材分)

アジア総合政策センターではアジア関連の研究を行っている学内各部門・研究室を訪問し、研究の概要をセンターホームページに掲載、広く内外に紹介している。

回	研究者名	所属	研究タイトル
17	江崎 哲郎・教授	工学研究院附属環境システム科学研究センター	「中国華北平原における地下採掘に起因する地盤沈下とその環境影響の予測・対策の研究」
18	湯元 清文・センター長	宙空環境研究センター	「MAGDAS / CPMN による宇宙天気予報～アジア諸国との交流と展望～」
19	江頭 和彦・教授	農学研究院	「農業分野における研究パートナーシップの構築」
20	酒井 治孝・教授	比較社会文化研究院	「ヒマラヤ山脈の上昇プロセスとモンスーン変動史の解明を目指して」
21	岡村 耕二・助教授	情報基盤センター	「次世代インターネット技術のための研究開発と実証実験」
22	大柿 哲朗・教授	健康科学センター	「ネパールにおける健康科学的調査研究」
23	出口 敦・教授	人間環境学研究院	「アジアの都市の仮設空間と賑わいの場に関する研究」
24	原 寿郎・教授、 楠原 浩一・助教授、 吉良龍太郎・助手	医学研究院・成長発達医学分野(小児科)グループ	「亜急性硬化症全脳炎に関する国際共同研究」
25	島岡 隆行・教授、 中山 裕文・助手	工学研究院	「衛星リモートセンシングによるアジアメガシティの大規模廃棄物最終処分場モニタリング」
26	藪野 祐三・教授	法学研究院	「地雷撤去システムの開発」
27	江原 幸雄・教授	工学研究院	「メラピーウンガラン火山システムの地熱系発達史解明と地熱資源量評価に関する研究」
28	溝上 展也・助教授	農学研究院	「薪炭材消費と森林バイオマス・生物多様性の持続性との関係——カンボジアでの事例——」
29	中橋 孝博・教授	比較社会文化研究院	「中国・中原地域出土の古人骨に関する人類学的研究：渡来系弥生人の起源を巡って」
30	静永 健・助教授	人文科学研究院	「日本における中国古典文学の伝播とその展開に関する研究」
31	西山 徳明・教授	芸術工学研究院	「ヘリテージ（遺産）の所有と利用に関する観光文明学的研究」

各研究室紹介の詳細はホームページを参照：<http://asia.kyushu-u.ac.jp/research/>

7. 九大アジア叢書発行

アジア総合政策センターでは、九州大学におけるアジア研究の成果を幅広い読者層に分かりやすく公開することを目的に「九大アジア叢書」を刊行しており、2005年度は以下の2冊を刊行した。

6. 『スペイン市民戦争とアジア』

九州大学韓国研究センター長・教授 石川 捷治

フリージャーナリスト 中村 尚樹

7. 『昆虫たちのアジア』

九州大学熱帯農学研究中心・教授 緒方 一夫（編著）

* 叢書は市販もされています。購入希望の方は下記へお問い合わせください。

九州大学出版会

〒812 0053 福岡市東区箱崎7 - 1 - 146

TEL: 092 641 0515

8. 2005年度アジア総合政策センター交流支援事業

本学が掲げる「アジアに開かれた大学」をより推進するため、本学教員又は学生が主体となって実施する、アジア研究に関する催事のうちアジア総合政策センターが共催あるいは後援をするものについて、広告物の制作費用等の補助、及びアジア総合政策センターのホームページやメールマガジンなどを通じて広報支援を行った。

2005年度交流支援事業採択一覧

番号	申請者			催事名	AC支援
	氏名	所属	職名		
1	牟田耕一郎	病院アジア国際医療連携室	講師	アジアの健康を考える会 第1回講演会 “国境を越えた保健医療協力”	後援、広報、広告物補助
2	吉良龍太郎	病院・小児科	助手	第16回福岡国際母子総合研究シンポジウム	後援、広報、広告物補助
3	源田悦夫	芸術工学研究院	教授	Asia Digital Art and Design International Forum in Fukuoka	後援、広報、広告物補助
4	赤司泰義	人間環境学研究院	助教授	第1回環黄海建築環境エネルギー国際交流会議	後援、広告物補助
5	中野等	比較社会文化研究院	助教授	九州大学21世紀プログラム（人文科学）「東アジアと日本：交流と変容」東アジア史研究コンソーシアム発足ワークショップ	後援、広告物補助
6	石川捷治	韓国研究センター	センター長	国際シンポジウム「松雲大使と玄界灘」/日韓海峡圏サミット「私たちの提言：日韓海峡圏共同体構築のために」	後援、広報、広告物補助
7	小松太郎	言語文化研究院	助教授	シンポジウム「国際協力の将来と若者への期待」	後援、広報、広告物補助

申請10件、採択7件

9. 2005年度アジア総合政策センター政策提言支援事業

本学で行われている「アジア研究」のうち、政策提言につながると考えられた以下の調査・研究に対し、研究費支援を行った。

2005年度政策提言支援事業採択一覧

番号	氏名	所属	職名	研究タイトル
1	大谷順子	言語文化研究院 (アジア総合政策センター)	助教授 (協力教員)	中央アジアの人間開発と人間の安全保障のための地域協力 カザフスタンの保健医療とインターネット・ネットワーク促進の現状把握分析調査
2	江崎哲朗	工学研究院	教授	東アジアの開発と環境問題に関する GIS 情報基盤の構築
3 (辞退)	高山浩一	病院呼吸器科	講師	日本および韓国の臨床試験制度の比較検証

申請 4 件、採択 3 件 (うち 1 件は辞退)